

がんの痛みに使用する 薬剤について

緩和ケア認定看護師 寺戸 純子



私は、現在5階南病棟で勤務しながら患者さんやご家族にがんにもなう身体症状への苦痛や不安に対するケアを行っています。毎週木曜日は緩和ケアチームで各病棟のラウンドをしています。看護師から患者さんの痛みや症状に関するケアの相談を受け、患者・家族へのケアを一緒に考えています。

今回は、がんの痛みに使用する薬について説明します。

「がんの痛みに使用する薬剤について」

がんの痛みに使用する痛み止めをオピオイド鎮痛薬(医療用麻薬)といいます。オピオイド鎮痛薬の使い方にはWHO(世界保健機構)で定めた国際ルールがあります(図1)

WHOの基本5原則

- ▶ 経口投与を基本とする
- ▶ 時間を決めて定期的に投与する
- ▶ WHOのスケールに沿って
- ▶ 個別対応で
- ▶ 細かい配慮をする

図1



①患者さんが自分一人で使用することができる「飲み薬」で始めるのが基本です。ただし、飲み込めないなど問題や副作用が問題となる場合は、貼り

薬(皮膚から痛み止めを吸収させる製剤)や注射薬、坐薬を使うこともできます。薬は、患者さんの症状によって選びますが、病院によって使うことができる薬の種類に違いがあるので、医師や薬剤師に相談しましょう。

②がんの痛みを治療するオピオイド鎮痛薬は、「痛くならないように使用する」「鎮痛薬の効果が途切れないように継続して使う」ことがとても重要です。通常、一定の間隔で規則正しく使います(12時間、24時間、3日ごとなど)

③がんの痛みには、さまざまな種類があり、オピオイド鎮痛薬は痛みの強さに応じて使い分けます。痛みの強さや、使った上での効果を見て、段階的に痛み止めを選んでいきます。

④がんの痛みの治療の目的は、まず患者さんの痛みが十分にとれることです。その上で、吐き気や便秘などの

副作用に注意し予防します。また、身体の状態の変化をみながら、鎮痛薬の使用法(内服、注射、貼付剤)を変更する必要があるかどうか注意しながら医師、薬剤師と共に治療します。

鎮痛の目標

図2

鎮痛の目標を段階的に立てて緩和していきます。(図2)

- ▶ 第一段階: 安静時の痛みを軽減
- ▶ 第二段階: 安静時の痛みをなくす
- ▶ 第三段階: 活動時の痛みをなくす

「日常生活のポイント」

◆入浴

貼付剤の使用時は、張り替える時間の設定を入浴時間と合わせましょう。貼付したままの入浴は体温の上昇に合わせて薬の体内への吸収量が増加する可能性があるため避けましょう。

◆食事

食欲がないときは、食べやすい食事の工夫をしましょう。嘔気症状などが続けば主治医へ相談してください。

◆排泄

便秘症状があるときは、お腹の張りや排ガスに注意して早めに主治医へ相談してお薬を服用しましょう。

最後まで「その人らしく過ごせる」ように、医師や薬剤師と一緒にケアの方法や薬剤の使い方など患者さんの苦痛の緩和に努めていきたいと考えています。また、緩和ケア病棟だけではなく、患者さんの療養の場がどこでもあっても緩和ケアが受けられる環境が提供できることを目指しています。

